

# 訪日外国人観光 の新段階

A new stage of the visit to Japan foreigner sightseeing

財団法人 九州経済調査協会



2011年版 九州経済白書

# 訪日外国人観光の新段階

# は し が き

九州経済は、リーマンショックの後遺症を脱し、ようやく回復基調にもどしてきた。輸出産業をはじめとした製造業が好調を取り戻し、民間設備投資も回復の兆しがみえはじめた。

近年の九州経済の回復はアジア経済の急速な発展によるところが大きい。アジアは生産拠点というだけでなく、消費市場として魅力ある市場に変貌している。とくに中国の13億人の市場が動き出しており、今後も経済発展の勢いは続くものと期待されている。

そして、アジアでは経済の発展とともに、旅行需要が急速に高まってきている。九州への訪日外国人も100万人を突破し、さらに勢いを増してきている。

こうした訪日外国人観光客の増大は、まさに「九州アジアインバウンド時代」ともいえる新しい時代の到来を意味している。この時代の到来に合わせ、九州はかつて経験したことのないアジアの人の波を受け止めることが必要であり、旅行者の形態や目的も多様化・複雑化する中で、九州の対応力が問われている。

第44回を迎えた2011年版「九州経済白書」は、訪日外国人観光客をテーマに取りあげ、訪日外国人の歴史的な増加の背景、訪日外国人の特徴をみると同時に、今後の発展戦略を考察した。

十分な分析が出来なかった面も多々あるが、この白書が地域経済の現状に関心を持つ企業関係者やインバウンド事業に新たに取り組む旅行関係者、自治体関係者などの皆様のご参考になれば幸いである。

最後に白書の作成にあたっては、ヒアリングやアンケート、およびデータのご提供等で企業、団体、自治体などのご協力をいただいた。また、執筆は当会研究員のほか、九州産業大学商学部第一部 観光産業学科 曾山毅 准教授、沖縄国際大学経済学部 地域環境政策学科 上江洲薫 准教授にもご多忙の中で協力いただいた。ここに厚く謝意を表す次第である。

2011年2月

財団法人 九州経済調査協会  
理 事 長 森 本 廣

# 目 次

## 総論 訪日外国人観光の新段階

はじめに	1
Ⅰ章 九州アジアインバウンド時代の到来	
1. 入国外国人数100万人へ	1
2. 強まる東アジア安・近・短旅行	3
3. 訪日外国人市場の実態	9
Ⅱ章 九州アジアインバウンド時代への対応	
1. 国際化対応を進める観光・サービス業	12
2. 訪日外国人への自治体の対応	16
Ⅲ章 展望と課題	
1. アジアの安・近・短旅行の受入拠点化	21
2. 旅行商品の高付加価値化	22
おわりに	25
1章 韓国・台湾・中国人の訪日観光行動と九州誘致の問題点	
はじめに	27
1. 韓国・台湾・中国の訪日旅行市場の特徴	27
2. 韓国・台湾・中国人の訪日行動比較	34
3. 訪日中国人の動向	41
おわりに	46
2章 国際対応を進める九州の宿泊施設	
はじめに	49
1. 受入体制整備が進む九州の宿泊施設	49
2. 多様化するサービス流通の仕組み	58
3. 訪日外国人旅行の成熟化と拡大への対応	65
おわりに	70
3章 訪日外国人拡大に向けた九州の情報発信	
はじめに	71
1. 検索エンジンでみる九州観光の情報流通量	71
2. 訪日外国人観光客による出発前の情報源	72
3. 訪日外国人観光客による滞在期間中の情報収集	83
おわりに	86
4章 沖縄における外国人観光客の動向と対応	
はじめに	87
1. 沖縄の訪日外国人観光の現状と特徴	87
2. 沖縄におけるインバウンド拡大への取組	95
3. 沖縄の観光事業者の対応	102
おわりに	109
参考資料	111

# 総論

## 訪日外国人観光の新段階

### はじめに

九州では、2002年からの景気拡大や、08年のリーマンショック後の回復過程において、輸出産業が経済を主導してきた。人口減少へと向かうなか、内需は冷え込んだままであり、九州にとって外需の重要性が一段と高まることが予想される。九州において、自動車、半導体などの輸出産業に加え、新たな柱として期待が高まっているのが、観光、とりわけ訪日外国人（インバウンド）である。

わが国では、2003年1月に当時の小泉純一郎首相が行った施政方針演説を契機として、同年4月にはビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）が開始され、08年10月には観光庁が発足した。同キャンペーンでは、2010年までに訪日外国人を1,000万人という目標が掲げられた。さらに、2010年6月に発表された政府の新成長戦略では、6つの戦略分野の1つとして「観光立国・地域活性化戦略」があげられ、「訪日外国人を2020年初めまでに2,500万人、将来的には3,000万人。2,500万人による経済波及効果約10兆円、新規雇用56万人」とする新たな目標が掲げられている。

九州でも、アジアを中心に訪日外国人は右肩上がりの基調で増えてきた。今後もアジア経済の成長に伴い、訪日外国人の増加の流れは加速していくとみられる。総論では、訪日外国人の推移と特徴を通して、アジアインバウンド時代を展望する。

## I 章 九州アジアインバウンド時代の到来

### 1 入国外国人数100万人へ

アジアから九州への訪日外国人は、韓国、台湾の増加に中国が加わることで、この10年間で倍増し、100万人の大台を超えた。このスピードで拡大すると、政府目標の1割の250万人の時代はすぐそこにまできている。これは訪日外国人が九州に大挙して押し寄せてくる時代であり、まさに九州の「アジアインバウンド時代」の到来といえる。九州は、このアジアインバウンド時代を、九州経済の発展へとつなげていく必要がある。

#### 助走期から発展期へ

九州の訪日外国人は、段階的に拡大し、100万人を超えるところまできた。九州・山口の入国外国人数の長期推移をみると、1985年のプラザ合意後の円高、97年のアジア通貨危機、2008年のリーマンショックによる世界同時不況など数回の落ち込みはあるものの、1975年以降、ほぼ右肩上がりが増えてきた（図表Ⅰ-1）。

とくに1980年代後半からアジアの経済成長が顕著となり、国内ではリゾートブームによりテーマパークなどの新しい観光施設が相次いで開業し、韓国、台湾からの観光客を中心に入国外国人数は急